

## 第 11 期 第 30 回 np.広告学校 講義録

### 【小霜クラス : Deaps】 ③

(注・受講生の表現案に使用されている画像は基本的にネット上のフリーのものや自分たちで撮影したのですが、もし肖像権などで問題あるものがございましたら [contact@nopproblem.co.jp](mailto:contact@nopproblem.co.jp) までご連絡ください。)

#### ◆日時

2019年3月11日

#### ◆出席者 (※敬称略)

タオパイパイ、赤坂の女王、私がモアイ、いい肉大木、サッチー、坂根もどき、  
妹、ポルコ、37.2℃、ジャニーズ Jr.、パレス岩谷

生徒 11名(女性 6名 / 男性 5名)

+小霜

小霜：じゃあ始めますかね。どのチームからでも。

#### 【私がモアイ&37.2℃チーム】

37.2℃：ではここに座っている僕らから。

前回 A 案としてこれ↓を出したのですが。コンセプトは悪くないけど、あまりにも攻撃的すぎると。思いやりがないと、ガイドブックに対する。

微熱モアイA案



小霜：ガイドブックに対する思いやりというよりも、まず嫌なものだね。

37.2℃：そうですね、はい。

小霜：嫌なもの。まあ広告って、基本、強制視聴みたいなもんだからさ。このポスターが街に貼られるってことはさ、街中にゴミをまき散らすってことになるわけだね。そうことはしちやいかんことだね。

37.2℃：これを、同じ方向性だけど、もっと考えてA案2案を出そうとチャレンジしたのが、これなんですけど。全部行きつくしたよねってことをターゲットに伝えて、タグラインでDeapsがありますよってことを伝える。

微熱モアイA案

富山 宇奈月温泉  
休む温泉とスイーツで美人  
行った

石川 加賀温泉郷  
いろんな温泉地、食べきれないくらいスイーツ  
行った！

あなたのカメラロールをAIが分析。全く新しいおでかけ先提案アプリ

Deaps

小霜：意味不明だね。Deapsの良さを言っていない、何も。何のことが分かんない。

37.2℃ : もう1つ。これは Deaps に実際に載っているビジュアルを使っている。

微熱モアイA2案



小霜 : うーん、こういう提案するかな？いやこれってさ、画像だよな？その人がいつも見ている画像なんかから、好きそうな画像を類推して、リコメンドするっていうことが出来ると思うんだけど。こういうシーンを好きでしょ？って提案するって、するかな？旅行ってさ、シーンだけじゃないじゃない。そこにあるアクティビティみたいなものも含めて楽しむものでしょ？浜松町の北口の改札からの風景あなた好きでしょとかって、提案するとはとても思えないんだけどね。

あとこれを見て、ああこの画像、画像っているか風景、なんか俺好きだなんて思う人いるかあったら、いないと思うんで。こんな提案されても困るって風になるんじゃない？

ちょっとね、小理屈で考えすぎだと思うよ。これも小理屈じゃん。君たちの的には正しいと思っているかもしれないけど、やっていることは街中にゴミをまき散らすってことなんだよ。

ポスターなら街中だし、WEB だったら、自分の見ているスマホの中に、ゴミをまき散らすのと同じことじゃん。そうでしょ。だから広告ってパッと見て、いいなと思わせないとイケないわけだよ。

小理屈の前に。これ見ても、これ見ても、いいなってとても思えない。

37.2℃ : 対ガイドブックの以前に、広告に対する見方っていうのが間違っている感じですか？

小霜 : この講義では、ストラテジーを考えて、その後表現を考えるっていうステップを踏んでいるわけだけど、これ(提出された課題)だと表現を考えるっていうステップの意味がない。

どんだけストラテジーが合っても、表現の見た目の面でいいなって思わなければ、それはもう意味がないわけよね。それは入ってきてくれないわけだからさ。そこんところの入口としての面がま

えをどうするかってことをやんなきゃいけないわけけど。

なんだろう、逆をやっている感じだよね。 いいねっていうことを、どう作るかがまずないとダメで。そこんところを考えてくれよっていうお題だったんだけど。とてもこれは、考えているとは言えないんじゃないかな。と思うけどね。

**37.2℃** : もう一個、Z 案なんですけど。やっぱりこの Deaps ってというのは、AI を持ち込んだっていうのが、1 番の良い所かなって思ったので、それを車内掲示風に端的にというか、1 番自分に関係あることのように思ってもらえるように、こういう風にしました。

## 旅好き各位

### AI導入のお知らせ

これまで、旅の行き先はガイドブック、旅行サイトなどから、

時間をかけて探すことが主流でした。

行ったことある場所をオススメされる方も大勢いました。

そこで、私たちは本当の旅好きのために、このアプリを開発しました。

あなたの趣味趣向を人工知能が解析し、

Deapsはあなたを誰よりも理解します。

これからは、Deapsが

あなたが想像していなかった、

ぴったりの旅先を提案させていただくことを約束いたします。



**小霜** : うん、まあこれは良いよ。俺は、これはOだ。

**私がモアイ** : ありがとうございます。

**37.2℃** : Oっていうのは、Deaps が言うべきことを言えているからOですか？

小霜：言うべきことを、ちゃんとやっているだけっちゃだけなんだけど。

まあ旅っていうものに、いよいよ、旅にも AI が導入されたってことを、ニュース化しているって  
うかね。そういう意味で表現になっているって思うんで。これはOだと思う。

37.2℃：ありがとうございます。

小霜：結果的に表現になっているって、そんな感じかもね。


【ジャニーズ Jr.&サッチーチーム】

ジャニーズ Jr.：お願いします。A案は、シンプルに Deaps を説明しようと思っていました。キャッチコピーは、まだまだまだまだ、あなた気づいてない旅先がいっぱいありますっていうキャッチコピーを大きくして注目してもらうようにしようとしてます。

まだまだまだまだ  
まだまだまだ、  
あなたが気付  
いていない旅  
先がいっぱい  
あります！

でも彼は既に気付いている。



AI トラベルプランナー  Deaps

小霜：気づいてないっていう言葉が間違っていると思う。

ジャニーズ Jr. : 知らないの方が？

小霜 : いや、知らない旅先がいっぱいあるのは当たり前よ。だって日本中行き尽くした人なんていないわけだから。あなたが知らない旅先がいっぱいありますって、そりゃそうでしょ。当たり前だよねで終わっちゃうね、これは。要は、あなたの好みみたいなものをビッグデータから解析して、提案するよ、と。旅先をAIがリコメンドするよっていう、そういうサービスじゃない。そのことを、一切言えていない。だからこれは0点。

サッチー : もう1つが、AIに勧められて来た。良い所じゃないか。これは、好きな場所に気づいていないということなんだけど、AIだから勧めてくれた。自分の元々好きだってわかっているものだと、自分で広げていけるけれど。

A案：ジャニーズJr.&サッチー



山形県尾花沢市「銀山温泉」

小霜 : まあ理屈は分かるし、正しいと思うのね。ただしなんか物足りないなあ。

サッチー : なんでしょう？

ジャニーズ Jr. : 最初、この案を考えているときに関東近辺で雪見風呂ができる場所を探して、ちょっと意外性を入れようと思ったんです。

小霜 : なんか、なんだろうね。何が物足りないんだろうね。良い所じゃないか、っていう言葉なんじゃないかなあ。

サッチー：こういうのが好きだったんだ、っていう。

小霜：いや、AI のリコメンドを信じて、まあいっちょ信じてやるかと思って来てみたわけだよね。そして、自分の好みにぴったりだったってことを言いたいわけだよね。その時に、良い所じゃないか、みたいな言い方するかな。この人の気持ちになりきれてないような気がするんだよね。

あるいは、良い所じゃないかっていうのはいらないかもしれないね。AI に誘われて来てみた、だけでも良いかもしれない。良い所じゃないかっていうのが、なんかくどいのもかもしれない。余分というか。

誰かに誘われて行くっていうことを、置き換える。これからは AI が旅に誘う時代なんですよ。っていうんだったら、AI に誘われて来てみたって言えば、済むよね。良い所じゃないかっていうのは、言う必要ないよね。良い所じゃなかったら広告しないしね。これからは、AI に誘われて旅に行くのが当たり前なんだよみたいなことを言うんだったら、もう AI に誘われて来てみたって言えば、十分伝わる気がするんだよね。それにまた良い所じゃないかを足すとね、そこが逆に濁るっていうかさ、余分な要素が入ってきて、良さが削がれていく気がするんだよね。

要は、切れ味が鈍くなるっていうかさ、広告の表現の。広告表現って、本当に要素はもうシンプルで、スパッとわかるっていうのが一番かっこいいんで。あれ足して、これ足してってやるのってカッコ悪いんだよね。刺さんないんだよ。なんか言い訳がましく見えるわけ。そうね、この 2 行目がなければ、悪くないかな。そんな気がするけど。ただ、あなたの好みを AI がちゃんと分析してるところまで理解できるかっていうと、足んないかな。やっぱり、それはタグラインで分かるように言ったほうが良いと思うんだよね。あなたにマッチするだけじゃ、ちょっと分からんかなあ。ちょっとふわっとしているかなって気がするけどね。

ジャニーズ Jr.：はい。AI に騙されて来たがみたいなのところまで言っても良い？


小霜：騙されて？

ジャニーズ Jr.：誘われて、最初は信じてなかったんだけど、騙されてと思って行ってみたら、意外と良かったみたいなのところ…。

小霜：なんかカッコ悪いな。そうやって、なんかこう、ひねろう、ひねろうとして、歪な姿になっていく感じがする。なんかひねりたがるよね、みんなね。ひねればひねるほど、なんかこのままでも良い素材なのに、なんかこう、塩で食えば良いものを、なんかケチャップつけたり、グリーンピース乗っけたりするよね、みんな。なんでそんなのやるたがるわけ？みたいな。そんな感じ。カッコ悪いよ。っていうか、良い店行ったら怒られるよね、そんな食い方したら。

ジャニーズ Jr. : はい。あと、もう1案もかなりひねっているZ案なのですが。一応、幅広く考えようと思ったんです。有名な観光地は混んでいるから、来て意外と自分に合わないなというアプローチをしようと思っていたんです。



あなたにぴったりの観光スポットを提案するアプリ。  Deaps

小霜 : あなたにぴったりの観光スポットを提案するアプリっていうのは言い得ていると思うのね。でもこのビジュアルが意味が全く分からない。なに言ってるのって感じ。

ジャニーズ Jr. : はい。単純にこういう有名どころに行って、ああ、そんなに自分に合わなかったって表現しようと思ったけど、あんまり上手くいってないと思うんです。

小霜 : あのね、これフランス革命の絵でしょ？フランス革命と、観光地に人が多いって何の関係があるの？何の関係もないよね？

ジャニーズ Jr. : はい。

小霜 : わけが分からない。なんでこういうことをしたがるのかのわけが分からない。

ジャニーズ Jr. : 繋がっているかどうか、正直確信がないんですけど。なんか、とりあえず繋げてみようかという思いがあったんですね。

小霜 : 繋がる？なにとなにが繋がるの？



ジャニーズ Jr.:この絵が、みんないっぱい、同じ方向に向かってる絵なので。同じ観光地に向かってる、みたいな。

小霜 : そういう絵を探せば良いじゃない。なんでフランス革命の絵を持ってくるの？

ジャニーズ Jr.:うーん、はい。それも少しひねったかもしれないです。普通にそういう絵で良かったかも。少し面白くしようと思っただけなんですけど。

小霜 : それがもう全然間違いなのよ。いやなんかね、こんなんつけたしたりさ、カッコ悪いんだよこういうの。足すってカッコ悪いんだよ、めっちゃめっちゃ。あのね、君いまシャツ着てるでしょ。そのシャツにバッチやら勲章やらアクセサリーとかね、つけまくったらさ。いや、それでちゃんと一つの形になってれば良いよ。なんかベタベタさ、あらゆるものをつけてたら、なんか道化師みたいに見えると思わない？これは道化師よ。カッコ良いのって、シンプルでスパツとしてるんだよね。説明しよう説明しようって、自分のことを説明するのに、私は何なに大学ですって大学のバッチつけてさ。

ジャニーズ Jr.:カッコ悪いですね。

小霜 : カッコ悪いよね。それよりも、仕立ての良いシャツ一枚着てれば、大体そこから、ああこの子は育ちが良いんだとか、センスが良いんだとかっていう風に、見る人が推測してくれるっていうのがカッコ良いわけでしょ？分かってくれ、分かってくれ、みたいな感じでき、これつけたら分かるかな？これつけたら分かるかな？みたいなのって、カッコ悪いんだよね。

ジャニーズ Jr.:わかりました。

小霜 : はい。

ポルコ : これ、ジャニーズ Jr.が独自の加工したの？

ジャニーズ Jr.:そうです。

ポルコ : へえー。

小霜 : あの、この加工技術は、認めるけど。

みんな : 笑

私がモアイ：そういう絵かと思っちゃった。普通に。

小霜：あのね、ここに労力使わないでほしいね。そもそものアイディアが良ければ。

ポルコ：その真ん中の人 Deaps を兼ねているっていう意味？

ジャニーズ Jr.:いや、完全に有名な観光地に行っている人たちが、がっかりしているのを表現しようとしていた。

小霜：違うでしょ。これガイドさんでしょ。

ジャニーズ Jr.:はい。

小霜：ほら、もう分かってないじゃん全然。

ポルコ：これ混んでるからこっちは Deaps が言っているっていう比喻じゃないんだ？

小霜：そうじゃなくって。

ジャニーズ Jr.:そうじゃない。

ポルコ：あ、違うんだ。

小霜：これはガイドさんで、どこに行っても観光地ってこんな有様でしょって言っているわけですよ。

ポルコ：あー、それは分かんなかったなあ。

小霜：ほらな。

ジャニーズ Jr.:もう少しシンプルに伝えて良かったんですね。

小霜：うん。

ジャニーズ Jr.:はい。ありがとうございます。

小霜：いやひねるって言葉が良くないと思うんだよね。なんかひねりが無いとって言うじゃない？ひねりなんてかね、なくて良いのよ全然。ひねりが無いとか言うからさ、ひねらなきゃいけないと思込んで、得体の知れないものにしちゃうんだよね。得体の知れない、意味不明のものがクリエイティブだとかっていう誤解を与えちゃうわけ。ひねりって言葉が。なんかしなきゃいけない、みたいなね。

### 【いい肉大木.&ポルコチーム】

ポルコ：次。今回はコピーを考えて、ビジュアル考えちゃいました。なんか両方、今の話じゃないですけど、ひねって、上手いカラオケに無理やりハマりみたいな、そういう例えもいただいたんですけど。ちょっとシンプルに、このビジュアルのインパクトで、Deapsが〇〇好きな私に勧めてくれた、っていう、その〇〇好きを、要所要所で掛け算する。

その場所の写真っていうかビジュアルが、ああ、こんなところもあるんだっていうことを表現しうるかどうかがポイントだなと。旅のアプリの宣伝なので。ということのを思いまして、一応こんな風にしました。これを連貼りするようなイメージで、色んなパターンで、4つくらい作ってみましたんですけど。まあいくつか並べて、パターンは同じなんですけど、場所ごとに好みやこだわりのある人に対して、こういう場所を勧めて、行ってみたというようなエピソードをここに表現するという意味になります。



小霜：じゃあこれ意見を聞いてみよう。みんなの意見は？

タオパイパイ：なんでこれは、〇〇のところに3つくらい入っているんですかね？

ポルコ：最初2つだったんですけど、2つぐらいだと、それぐらいの検索すぐ出来ちゃうかなとかって話して。まあ要するに、好きなものの掛け算を表さないといけないっていうんで。まあ3つくらいあった方が。まあそれ言ったらもっと多くないといけないっていうのが本来のAIなんですけど。

ジャーニズ Jr.:なんかパッと見た感覚、この3つとも好きな人しかオススメしないって。

小霜：3つとも好きじゃないと、ここはオススメされてないってこと？

ジャーニズ Jr.:されないみたいなイメージが少し感じた。

私がモアイ：なんか4枚出てきたときに初めて、アンダーラインのところが、それを好きな人に向けてるんだなってわかったんですけど。1枚パッと見たときに、その3つのうちどれかを好きだったら勧めてくれるのかなって、なんて言うんだろう…。言葉にできない。

小霜：ごめん、ちょっと意味が分からない。

私がモアイ：なんか、映画×恐竜×絶景とかだったら、分かるなと思ったんですけど。

小霜：ああそういう意味ね。

妹：言葉として意味が分からない。

パレス岩谷：たぶん議論であったと思うんですけど。タグラインでAIって入っていれば良いって話になるかもしれないんですけど、コピーのDeapsがをAIがにしたほうが、パッと見の時の入口としては新しさとか食いつきがあるのかなと思いました。

ポルコ：そこはね、どっちが正解かわからないんだけど、Deapsがって主語にすることで、Deapsって何なんだろうってことを考えさせようと思って。商品名をコピーにする形を一応とったということです。正しいかどうかは分からないけど。

いい肉大木：前回あの、初登場感みたな話も少しあったので。

小霜：他の人の意見は？

サッチー：なんか、心理テストとかじゃないけど、自分だったらこれ何を勧めてくれるんだろうっていう、やってみたい感じはします。

小霜：ああ、はい。

サッチー：他の広告はどうなのかなって見たくなったり。

37.2℃：これめっちゃ良いと思う。これ全部連張りであつたら楽しいなと思って。純粹に

小霜：えっと、もし君たちがクライアントだったらどう思うかね。Deapsの人だったら。

ジャニーズ Jr.:これが、あの例えば僕が Deaps の人だったとしたら、これを駅で張るとか、そういうポスターでやるだったら、すこし無理かもしれないと思いました。

小霜：どうして？

ジャニーズ Jr.:意外と、ターゲットは駅だとせばまる…。

小霜：ああそういうのは置いて、メディアはともかくとして。この表現を、君たちがクライアントだったら、やるか、やらないか。

サッチー：お金かかるっていうのは抜きにしてですか？

小霜：そんなのは抜きにして。いや、これ金かかんないよあんまり。

サッチー：そうなんですか？

小霜：うん。だって、アーカイブ買えば済むし。だってもう、これで出来てるじゃん。

サッチー：種類を出すっていうのは、別にお金かからないんですか？

小霜：だってもう 4 種類出来てるじゃん。タダで。これ写真撮った人のライセンスがあるかもしれないけど、そんなもの別に高くないし。金なんかかかんない全然。

ジャニーズ Jr.:やっぱりないかもしれないですね。

小霜:なぜ?

ジャニーズ Jr.:あくまで個人的な意見だけど、映画、恐竜、絶景好きな人、本当にこういう恐竜に似たようなところに興味が、なんかちょっと違う感じがする。ここもなんか、歴史、海、コインが好きな人だったら、この3つかけあわせたものが本当に好きになるか。ってなんか、普通の海のほうが、知られていない、小霜さんが言っていた沖縄のあそこの超綺麗なところのほうがもっと良いかなと思いました。

小霜:僕ね、これアイデアあると思うんですよ。表現として。で、アイデアを生み出そうっていうスタンスは良いと思う。

けど、これは、僕がクライアントだったらやらない。なぜならば、理由は2つあって。おそらくこういうアルゴリズムではないと思う。映画、恐竜、絶景を掛け合わせたらこうだよっていう、そんな単純なアルゴリズムではないし。もしそうだとすると、それはAIではない。AIっていうのは、ラーニングしていくっていうことなので。この人はここが気に入っているよね、こういうものが気に入っているよね、みたいなのところから学んで。

要は、旅先、目的地の属性ってあってね、その属性から共通点みたいなものを見出してって、ここが好きっていうことは、おそらくこの人はここも気に入るはずだって、そういう類推をしながら提案するんだと思うんですよ。たぶん、その、映画好き、恐竜好き、絶景好きみたいな、そういうところのキーワードを拾って、じゃあここだっていう提案を、僕はしないと思う。だからこれは嘘になると思う。

ポルコ:実際のアプリでは、そういう自分の興味ワードを、単純に入れていくようなページがあったんで。それをちょっとイメージはしたんですけど。

小霜:ただ、それだけではないと思う。

ポルコ:もっと複雑であって当然だということですよ。

小霜:もっと複雑で。それはおそらく変数みたいに使っているんだと思うのね。基本はどこに行ったみたいなのところがベースにあって。そこに、ちょっとその、自分が好きな、例えば、恐竜だったら、恐竜に関するアクティビティがあるような、そういう場所を提案してみようとか。変数に使っているんだと思うんですよ。おそらく、これは、間違っていることじゃないかなって思うのと。

もう一つは、映画と恐竜と絶景が好きな人が、この場所が好きとは限らない。それは、ジャニーズ Jr.が言った通りで。実際に歴史と海とコインが好きな人がいてね、その人がこれ気に入っているか

うと、分かんないよね。そんなことと、実際にここの場所を気に入るってことって、関連性ないんじゃないかなって気がする。だから、これって下手をするとね、なんだそんなことか、って思われる。逆効果になる恐れがあるんじゃないかなと。

ポルコ：なるほど。

小霜：いや、そんなんでリコメンドするんだったら、いらないな、とかね。

ポルコ：やっぱあんときの議論だな…。

いい肉大木：そうですね。

ポルコ：2つの時に、検索ワードと同じくってというか、その時、その程度っていう言葉が出たんですけど。それと、似かよっちゃうというか、差別化がされづらいねって話したんですけど。観点としてはそこだったのかな。

いい肉大木：まあでも、ビジュアルのアイディアとかは、おお！っていう感じが、何か使えるんじゃないかとは思ったんですけど。

小霜：あとね、逆だと思う。実際の結果は。あのね、AIって答えを出すわけだけど、どういうプロセスを経てこの答えに至ったかっていうのはブラックボックスなんだよね。本当は歴史、海、コイン好きなのに、なぜここを提案してきた？っていうのがAIなんだよ。歴史、海、コイン好きだから、これを提案しましたっていうのは、それは人間のなす技なのよ。実際に二人でなした技でしょ、これ。AI いらんなんだよ、これだったら。わかる？人間でもできることね。AI 不要なんだよ。で、歴史、海、コイン好きなのに、全然関連性のないこれ出してきた、でも、これ良いよねって思った。なんでなんだ。っていうのがAIの真骨頂なわけで。AIと逆の作業をね、やっちゃたわけですよこれ。

ポルコ：そっか。なんかちょっと Deaps を使っていて、そこまで深いプランが示されなかったので、割と単純にぐるなあみたいなの。

小霜：ただそれはね、おそらくデータ不足。

ポルコ：そういうことなんですね。

小霜：AIってやっぱラーニングだから、学べば学ぶほどわかってくる。データが大きくなればなるほど、ブラックボックスもどんどん大きくなってって、なんでこれ提案してくるんだろうって話になっ

ていくんですよ。今は薄っぺらでも、きっとね。なんで俺にこれを提案してくるのか分からない。自分の趣味はこれとこれとこれって書き込んでいるのに、何も関係ないじゃん。みたいなものを、提案するようになるんですよ。なんでそれ提案しているのかっていうのは、開発している人たちに分からないっていうのが AI の世界なので。

**ポルコ** : ああ、バランスっていうか、見せ方っていう点で聞きたいのが、前回の授業では、どこか場所を見せるんだったら、意味なく持ってくるんじゃないかって、これを見たときに本当に、そのコピーにあるような場所がここだって思えるようになっていうやり取りが結構あったので。

そのコピーの善し悪しは別にして、シンプルに誰が見てもわかる言葉が書いてあって、ここを示してくれた、そういう意味かっていうバランス感で、割と単純に見せていったほうが良いんじゃないかってことを一応話してたんですね。

**小霜** : ああ、単純っていうんだったら、僕だったらね、「この場所が好きだ、なぜだか分からないが、好きだ。いや、もう愛しそうだ。」とか、そんなことが書いてあるくらいのほうが、AI すごいなってことになるんじゃないかって。

**ポルコ** : なるほど。なんで勧めてきたかは分からないっていうストーリーにしたほうが。

**小霜** : まあ AI としては正しいと思うのね。

**ポルコ** : そっか。ちょっと読みすぎたか。いやなんか、写真を読み込んで、それで判断してくるとか、プレスリリースにあったのが、こういう仕組みなんだねってことを読みすぎた感じがします。

**小霜** : でも単純な仕組みで良いんだったら、AI を名乗る資格ないし。

**ポルコ** : そうですね。

**小霜** : それは AI っていうよりも、ただのアルゴリズムでしかない。ラーニングを重ねていくってものが AI なので。どういう学習をしたかっていうのまでは、追いかけるれないはずなんだよね。例えば AI で婚活をやるとしたときにね、なんかもうこの女性にめちゃ惹かれると、いや俺のタイプじゃないはずなのに、なんだこのドキドキは、みたいなのが AI のなせる技なのかなって気がするわけですよ。

**ポルコ** : そっちなんですね。

**小霜** : すごく発達したらですよ、AI がね。



ポルコ：そっちなのか、そうか。なんで俺の好きなのがそれだって分かった？っていうのが AI じゃないんですね？

小霜：でもまあそれも同じことじゃない？

ポルコ：いや当初のコピー案の中にそれっぽいアプローチが結構あって。なんで分かった！？とか、げ、俺や！とかいうのが色々あったんですよ。だから自分の好みを言い当てるなんてすごいやつだなっていう、AI への驚きと賞賛がユーザーのピークにあるんじゃないかってのを一応考えたんですけど。

小霜：そこは表現の世界、言い方の世界になってくるけど。

どっちかっていうと、AI の凄みみたいなことを言うんだったら、俺の好みがよく分かるねみたいなことじゃなくって、いやもう、依存性になるくらい、すごい目にあわされてしまったぐらいな表現のほうが、とんでもない事態になりそうだっていう感じは与えるのかなって。

ポルコ：AI というものに対するインパクトですね。それを前に出したほうが。とんでもない事態。そっか。

小霜：まだそこまでいかないとは思ってますよ。ていうのはね、僕最近ちょっとがっかりしていることがあって。Netflix って、リコメンドの精度がめちゃ高くて。リコメンド経由で見る人が、7 割とか、8 割とか、そのくらいいるって言われているんだけど。僕に関しては全然当たらないんだよね。ていうのは、あなたとのマッチング度みたいなのが出るんだけど、過去の映画作品とかを見ると、俺がめちゃめちゃ大好きな、僕の中の映画ランキング 1 位はゴッドファーザーなんだけど、それはマッチング度 60%とかなんだよね。全然外れてるじゃんみたいな。僕が、もうこの映画は本当に愛しているくらいの感じのやつとかは 60%とか 70%とかね、そんな感じで出てくるんで、もう Netflix の AI 外しまくっているじゃんみたいな感じがある。だから、新作とかで 98%とか出るんだけど、なんかこう、あてになんねえなっていう感じ。っていうか、新作だと、新作見せようと思って、なんかオリジナルのやつは高めに出すようにしてるんじゃないかとか、そういう風に穿っちゃうね。

ポルコ：それ見てはいいんですか？見たら、先ほどおっしゃったように、なんだこのトキメキはみたいな。

小霜：そこまでいったのはないかな。昨日配信で「サーチ」見たら、これはすごいと思ったのね、映画として。この映画すげえと。思ったんだけど、残念ながら Amazon だったので、マッチング度は表示されなかった。

ポルコ：じゃあ次は Z 案いきます。

いい肉大木：ちょっとその依存性っていうところよりは少し軽めな表現になってしまうんですけど。コピー自体は、へえ、こんなところ知らなかった。どうして今まで知らなかったんだろう。タグラインは、あなたを深く理解する旅アプリ Deaps としました。これも企画としては、深さのありそうな著名人とかを起用して、ここに実際に出したものを出すっていう。



小霜：いやこれは分かんないな。ちょっとこれは意味不明だわ。何が言いたいかっていうのが。これは何が言いたいかすらわからない。そこまでも来ていないと思う。これアカン。論ずるまでもないって感じかな。

いい肉大木：はい、ありがとうございます。

ポルコ：ありがとうございました。

【赤坂の女王&妹チーム】

赤坂の女王： A 案からお願いします。A 案は AI が見つけた、福島のイタリアっていうのにしました。イタリアのカレツツア湖っていうのがあって、それに似ている福島県の五色沼っていうところを、AI が分析して提案してくる。なんか特徴が似ているっていうのを分析して提案してくれるっていう。



妹：まあスマホの写真を読み込んでってことですね。

小霜：じゃあ意見聞いてみよう。これどう思う？

サッチー：絶景発見か。マッチングよりも、こういう絶景がありますよっていう。

ジャニーズ Jr.: イタリア感薄い。なんかさっきの話を聞くと、本家の方の写真で、福島の方をオススメしてくれるんですけど。本家の写真持っている人だったら、本家行ったこともあるし、本家行くかもしれない。わざわざ福島行く、偽物を見に行くみたいな感じがします。

小霜：いやイタリアまで行かなくても良いよって話だよな。

ポルコ：本人がイタリアの写真を撮っているという前提？

妹：スマホのカメラロールに入っているという前提。

ポルコ：つまり自分が撮った写真？

妹：撮ったっていうか、あとは Google からダウンロードしたりして、好きだから持っているっていう。

タオパイパイ：単純に、この湖がイタリア感がないというか。普通の人がイタリアと聞いてイメージする絵じゃない。

いい肉大木：イタリア…。

ポルコ：なんか AI とユーザーとの関係値がちょっとわかんない気がしちゃったかな。ユーザーの好みを分析して、そこを持ってきたんだよねっていう、それが前提なんだよね？それがちょっと表現の中では分かんない。

いい肉大木：実際これがイタリアっていう風に出されても、行きたいって思うかどうかはちょっと。その写真持ってるし、わからないから、コピーがちょっと違うんじゃないかな。

小霜：コピーどうしたら良い？

いい肉大木：先ほど小霜さんがおっしゃっていたように、ここもう、すごい大好きみたいなこととか。実際に体験した時の気持ちみたいなものが入っていたほうが良かったのかな。

ジャニーズ Jr.：なんか福島の方は置いて、このイタリアのなんちゃら湖って知られていないし、イタリア行くのにここオススメしてくれるのっていうんだったらよいかかなと思った。

坂根もどき：せっかくイタリアと福島を対比するのであれば、スマホの中の画面ではなくて、画像を半分に分けて対比させるとかの方が。まだこの画面で、スマホの画面で見せられても、何がどうなっているのか、福島のイタリアっていうのがどういう意味なのかっていうのが、ぱっと見で伝わってこないって。

小霜：えっと、これに決定的に足りないのは、マッチングっていう概念だよね、やっぱ。なんか Google の類似画像検索みたいなものにしか思われないなど。AI が見つけたっていうのがきっとダメで。まあ福島のイタリアっていうのを活かすんだったらね、「福島のイタリア。こんな場所を探してたのよ。」とかって言えば、マッチングになるじゃん。いや、これがすごくイタリアっぽい絵だとするとさ、「AI が見つけた私のイタリア」って言ったらマッチングっぽくなるでしょ。要は、マッチングアプリだってことを、ちょっとした工夫で盛り込めるはずなのに、そこを怠っているんじゃないかと。もうそこは無理って最初から手をあげちゃっている感じがするんだよね。

妹：えっと、想定というか。たぶんこの人は、あくまでも福島でイタリアっていうのは一例であって。スマホにカレッツア湖っていう画像が入ってます、多分行きたいんですよね、きっと。好きっていうか、行ってみたいと思うくらいで。気になっていたから画像を保存していたと。で、この Deaps はそのスマホの写真を読み込んで、そこの国内にある近いところをオススメしてくれるっていうところがマッチングなのかなって思ったんですけど。

小霜：あの、全然違うと思うよ。だって、旅ってさ、今イタリアいるっていうことが価値を持つんじゃないか。風景が似ているから、福島でいいやって思わないんじゃないの。だったらさ、ハワイなんか行く必要ないじゃない。福島のハワイアンズに行けばハワイっぽいし、なんかフラダンスもやってくれるし、いいじゃないそれで。なんでわざわざ高い金払ってハワイに行くかっていうと、そこがハワイだからでしょ、本物の。見た目似てるから近場でいいやって思うか？思わないんじゃないかね。だから、そういう意味で言うと、めちゃめちゃこれ安易だと思うのよ。あなたこの写真好きでしょ、だからここ行きなよってさ、もう AI でもなんでもないっていうかさ。旅ってそんなものじゃないと思うんだよね。ただ、この人が気に入っていれば別よ。本当はこの風景が見たかったんだけど、同じような風景が近場で見れるっていうことについて、この場所いいやっていう風に思ってたら、ここ私のイタリアっていうさ。イタリアまで行くのは結構大変だけど、近場でこれ見れるんだったら大満足だよっていうことがあればいいわけだね。このアプリって価値を持つわけ。そこが分からない、全然。AI が福島のイタリア見つけましたよっていうことが、利用者にとって嬉しいことなのかどうか分からない。

妹：これでいうと、もう少し主観を盛り込んだ方が良かったっていうことですかね？

小霜：まあそうだね。これって利用者にとって嬉しいことなのかどうか分からないって話だね。客観的に見て、そりゃ嬉しいだろうっていうものだったら、主観を盛り込む必要はないと思うんだけど。これは嬉しいかどうか分からない。で、マッチングの喜びみたいなことが完全に抜け落ちてるんだよね。前から言っているけど、広告コミュニケーションっていうのは、ターゲットが自分にとって価値があるっていう風に、どう感じさせるかっていうテクニックなわけで。これだとまだ自分にとって価値があるっていうところまでいかないと思う。でもちょっとした言葉の工夫とかで、そういう風になるのよ。それをやろうとしていないっていう感じがするね。ちょっと怠っているんじゃないかって。これで良いって思うのが早すぎる。いやどこまで考えれば良いかって、これ決めの問題であってね。ここまで考えれば良いんだってのは言えない。でも、決めが早すぎるわ。決めが早い人は、その他大勢にしかならない。決めが遅ければ遅い人が天才って言われるんだよね。他の誰よりも決めが遅い人が天才と言われるんだよ。

赤坂の女王：こっちが Z 案です。



小霜：はい、またその他大勢の凡人企画の匂いがぶんぶんする。意味わからない全然。

妹：これは見た目だと、こういうギャルって、渋谷とか六本木とか、そういうイメージだと思うんですけど。AIっていうのが見た目じゃなくて中身を見てくれて、その人に合ったスポットってことで、例えばこの人がお寺が実は好きだったってことでオススメされているっていう。

小霜：正直俺はわけ分かんない。人は見た目じゃないことを知っているかいつて書いてあるけど、この人の見た目で判断してるわけじゃないでしょ。そうだね。見た目とこの人の好きな旅先って何も関係ないよね。そもそも関係ないよね。だから、全く意味不明。なんか走り出して10メートルくらいでマラソンしたって言っている感じがする。10メートルはマラソンとは言いません。短距離とも言えない。

ジャニーズ Jr.:この言葉だけだったら成立するかなって思った。この旅行アプリ使ったらお寺おすすめされてマジ卍なんだけど。

小霜：まあ意味は分かる。まだね。ただターゲットを絞っちゃうね。単純にギャル向けアプリっていう風に思っちゃう、思われちゃう。

**【坂根もどき&酒乱もやしチーム】**

坂根もどき：お願いします。酒乱もやしがないので、有意義な議論ができないかもしれませんが。A案か

をお願いします。シンプルに、AIだから分かる。AIだからこういう場所をおすすめしてくれる  
っていうメリットを端的に表しました。



小霜 : あのね、考えるポイントが違う。つまりね、自力で見つけれなかったって言ったら、ガイドブックでも良いわけじゃない。そうでしょ。ガイドブックとマッチングの違いをどう表現するのが、考えるポイントなわけよ。そこを一切考えてないよね、これ。これは論外。

坂根もどき : Z案が2つありまして。ひとつがこれですね。



小霜：これ好き。

坂根もどき：やった、嬉しい。なんか、寄り添ってくれるというか、自分が本当は気づいてなかったけど、ダム巡りが好きなんだろって、そっと優しく教えてくれる感じを表現しました。

小霜：これは、俺的には〇。あの、ダム巡りっていうのも、程よい感じ。ちょっとリアリティ感じるっていうか。ただ、ダム巡りみたいなことまで提案するのかな？ポイントポイントで提案してくるんじゃないかなって思うから、巡るみたいなことは本当はふさわしくないのかなって気がするんだけど。

坂根もどき：迷ったんですよね、そこ。

小霜：まあギリ良しとするかって感じかな。厳密に言えば。

坂根もどき：ダムだとあんまりこう、しっくりこなくて。旅先っていうのを表したかったので入れちゃったっていう感じです。

小霜：まあわかるよ。黒部ダムとかって言っても、ちょっとな。まあこのAIの不気味さみたいなものも含めて、表現できている気はするけどね。

坂根もどき：ありがとうございます。あと、Z案の2がこれで、本当にアイディアっていうところ。メインはこっち（ダム巡り案）だったんですけど。出てきたものを形にしたっていう。マッチ売りの



少女っていうところを、マッチした少女と。



小霜：あのね、いやこれも、このキャッチはね、いいなと思ったわけよ。それ以外がね、カッコ悪いんだよ。バタバタ貼りまくって。これをくっつければ分かるかなって。パスっと一発のビジュアルで決めて欲しい。

坂根もどき：それはさっきのお話を聞きながらも。

小霜：たぶんマッチ売りのパロディなわけだから、マッチ売りの少女が出ないと分かんないよねと。じゃあマッチ売りの少女がどこにいればいいの。例えば、寺なら寺でも良いや。寺かどっか、変なところに、この人と結びつかないようなところで、この人が喜んでいるような絵があれば済むわけじゃない。あるいは、どこかの観光地のアクティビティを楽しんでいるとかさ。要は、ターゲットが喜んでいるみたいだね、ことさえ伝わればいいわけじゃない。このアプリのおかげで、あなたに喜びを与えるのだ、楽しみを与えるのだからことがわかれば良いわけで。なんか説明しよう説明しようって、いや、説明しても、喜びって伝わんないから。喜んでいる絵があって初めて、喜びって伝わるわけで。

坂根もどき：わかりました。ありがとうございます。

【タオパイパイ&いちご園チーム】

**タオパイパイ**：いちご園がお休みなので、私から発表させていただきます。まず A 案が、旅といえば寅さんを連想する人が多いのかなと思っていて、寅さんを使った表現案になるんですけど。コピーというか、メッセージが、ねえ寅さん、Deaps があったら次の旅はどこに行っていたんでしょう、という風にかけていて。タグラインで、AI があなたにぴったりの旅先をレコメンドするアプリ Deaps、というような表現になっています。



**小霜**：いや、悪くないと思う。悪くないけど、ちょっと気になるのが、ねえ寅さんって呼びかけているんだよね？

**タオパイパイ**：そうですね、第三者からというか。

**小霜**：呼びかけ…。ここがちょっと気持ち悪いね。いや単純に、寅さんが Deaps を使っていたら、で良いんじゃないのって気がする。

**タオパイパイ**：ああ。なんか呼びかけていることで、第三者から死んじゃった人へのメッセージみたいにはなっているかも。空に寅さんが浮かんでいるので。

**パールコ**：それはあえてやったってこと？それが気になっているってこと？

**タオパイパイ**：あえて？そんな風に見えちゃったかなって思ったんですけど。ねえ寅さんって呼びかけているのはあえてやってます。

小霜：だからなんであえてやったの？

タオパイパイ：うーん。

ポルコ：いま生きてない人だから？

タオパイパイ：いや、そういう意味じゃなくて、先にこの表現ができて。いま思ったら死んじゃった人へのメッセージになったかなって。

小霜：いやだから、呼びかけようが呼びかけまいが、死んじゃった人じゃない。なんで呼びかけにしたかが分かんないって言っているの。

タオパイパイ：第三者からのメッセージ…。

小霜：いや寅さんが Deaps を使ったらっていうのも第三者からじゃん。

タオパイパイ：確かに。ねえ寅さんじゃなくても良かったかもしれないですね。

小霜：いやあのね、言葉のこだわりを感じないのよ。これは君だけじゃなくってみんなそうなんだけど。なんかね、やっぱ変なんだよ、この言葉。ちょっとね。寅さんに聞いているわけじゃない。寅さんにどこに行っているのって聞いている体なわけだけど、Deaps っていうのは Deaps がリコメンドするわけだからさ、俺に聞くなよって話なんだよね。そんな聞かれてもさ、Deaps が提案するわけなんだからさって。寅さんに聞くんってこと自体が成り立ってないってわけよね。だから、寅さんが Deaps を使っていたらどこに行ってたんでしょねっていう話でしかないんじゃない、って俺は思うわけ。そこがなんかね、ゆるいわけ。パッと見て、なんかおかしいなと思ってても、まあいいかみんな済ましちゃうわけよ。まあいいか、が 100 万、200 万の差になるわけ、この世界は。句読点一個打つか打たないかで、ずっと悩むのがコピーライターの世界だったりするわけ。丸ない方がいいんじゃないかなとかさ。本当にそういうことで悩むんだよね。で、これはコンセプトは悪くないと思うのよ。でも言葉がちょっとなんか変だよなって、なんで思わないのかなって、そこはやっぱ、まあいいか、にしちやっただと思うんだよね。

ポルコ：寅さんというコンセプトはありますか？実は前回、ルパンにたどり着く前に、寅さんを通った経緯があって。その時に AI に勧めてびっくりする、仰天の寅さんっていう、まあ言われりや安易かもしれないものにたどり着いたんですけど。そもそも寅さんは行き先決められちゃいけない人なんじゃないかっていうのを考えて。モチーフとして矛盾しているんじゃないかと。どこへ行くのかわかんないふーてんの寅さんなので、勧められたら寅さんじゃなくなっちゃうっていうか、そ

こでなんかこう、パラドックスっていうか、そんな高級なものじゃなかったんですけど、ちょっとやめとくかみたいな感じになったんです。

小霜：いや俺だったらね、たぶんキャッチね、「ちょっとつらくなくなった」ってするんじゃないかな。

タオパイパイ：なるほど、男はつらいよだから。

小霜：要は、この人、旅先自分で決めるわけじゃない。でも Deaps が勧めてくれたら、自分で決めなくていいわけじゃない。さっきから言ってるんだけど、表現って、ぱっと見てなんか面白いなとか、なんか良いことが起こっているんだとか、そういう出会い頭の印象がほとんど 9 割っていうかね。だから真さんと Deaps を組み合わせるんだったら、なんかこの人が喜んでいるっていう表現に僕だったらすると思うんだよね。だったら、「なんかつらくなくなった」とかさ。

タオパイパイ：あー。同じ表現でもう一つ違うコピーの案があって、それが、大変だ、あらすじが変わっちゃったぜ、みたいなコピーもあったんです。

小霜：それ、困ってるじゃん、この人。

タオパイパイ：確かにそうですね、言われてみれば。

小霜：このキャッチを活かすんだったら、ちゃんと言葉として整合性とれるようにしたほうが良いと思うし。まあ僕だったら、なんか理屈っぽいんで、なんか強い言い方ねえかなと思って。あと、ちょっと笑えるような。ちょっとつらくなくなってきました、とか言っていると、なんのことだろうとかって、とりあえず思っかなって。なんかそのいたずら精神みたいなものもあってもいいんじゃないかなと思うんだよね。許される範囲でいじるっていうか。いや俺、死んだ人とか、死んだ人が生み出したキャラクターとか、そういう使うのって好きじゃないわけよ。死人に口無しで、そういう使われ方をして欲しいって思ってたかもしれないじゃない。ただ、もし使うんだったら、まあこの位だったら許されるんじゃないかなっていう範囲でいじるっていうことじゃないかなって。僕は思ってるんだけど。まあそういうことです。

タオパイパイ：ありがとうございます。次が Z 案です。Z 案はちょっとボディコピーみたいな案にしてるんですけど。一番上に 3 万分の 1 という数字を大きく表現していて、下のボディコピーのところに、次の旅行どこ行こうって思ったときに、本当にたくさんの選択肢があるので、その中から自分にぴったりの場所を探すのってすごく難しいですよっていう話と、Deaps だったら、あなたの趣味嗜好を AI が分析して、3 万個の選択肢の中から、ひとつのぴったりの場所をレコメンドしてくれますっていうようなことを書いている案になってい

ます。

3月12日小霜クラス Deaps表現Z案 いちご園・タオパイパイ



1

30000

次の旅行、どこ行こう？あなたが旅行先を選ぶとき、選択肢は無限にあります。数ある旅行先の中からあなたにぴったりの場所を見つけるなんて、難しいですね。そんな時は、AIに丸投げしてしまいませんか？AI旅行マッチングアプリDeapsに登録されている観光スポットは、約30000件（2018年7月現在）。Deapsなら、あなたのカメラロールから趣味嗜好AIが分析して、あなたが本当に求めている1件の旅先をレコメンドします。もう、旅行に行つてがっかりしてほしくない。あなたが心から楽しめる旅行にしてほしい。Deapsで新しい旅行スタイルを。

AI旅行マッチングアプリ

Deaps

**小霜**：いや、嫌いじゃない。まあスキツとしてるからね。3万分の1って意味分かんないんで、なんだろう、3万件の中からあなたの1箇所をみたい言い方が早めに来た方が良いかなと思う。選択肢は無限にありますっていいながら、3万件って言っているのもね、なんか。

**ポルコ**：3万個の中から1個選んでくるっていう仕組みは正しいんですか？先ほど僕らのときに、全く条件とか、自分の頭の中の前提にないものが出てくるからAIすごいんじゃないという話をいただいたと思うんですけど。3万分の1っていうのは、どれかを選定する力ってことですよね。

**小霜**：まあ3万あるデータの中から、あなたにベストの1件を、っていう。

**ポルコ**：そういう解釈を広げるってことか。そうかそうか。

**小霜**：っていうことだと思うんで。そこが早めに分かるような工夫がしてあれば良いと思うんだけど。ただ、たたずまいは嫌いではない。説明をなんかこう、盛り込んで盛り込んでわけ分かんないみたい

なことに比べれば、チャレンジングで良いんじゃないかっていう気はするけど。悪くないと思うけど。

タオパイパイ：ありがとうございます。

### 【パレス岩谷&下からマリコチーム】

パレス岩谷：お願いします。ペアの坂根…、坂根じゃない、下からマリコちゃんがお休みです。今回、AZ どちらも強みが AI っていうのを、大々的に打った方向性で考えています。まずその中の A 案。A 案だけ 2 つになってしまったんですけど。どちらも A 案で言いたいのは、この Deaps を使った旅っていうのは、いつもの旅よりも楽しいよみたいなことを言いたくて。コピー自体が、AI が教えてくれた、私にぴったりなスポット。表現が、Deaps を使ってみると、1 日の旅行がこういう感じになるよ、みたいなのを。

10:00~11:30

12:00~13:30

14:00~15:40

16:00~17:40

AI が教えてくれた  
私にぴったりな  
スポット♪

人工知能 in 旅行アプリ

Deaps

Google Play

App Store

小霜：これはね、ちょっとまんますぎないか？

パレス岩谷：まんますぎましたか？

小霜：だいたいね、このスポットが楽しいよっていう表現って、こういう感じじゃない。こういうのがあって、こういうのもあって、こういうのもあってっていう。前も言ったけど、パッと見、既視感があるわけよ。

パレス岩谷：あ、そうだ。

小霜：よくある旅もの、の広告だなと思った瞬間に、AI がとかって言っても全然新しく感じないわけ。

パレス岩谷：すごい、そうですね。

小霜：さっき3万分の1って、たたずまいは僕はいいと思うよって言ったのは、新しさを感じたからね。これなんだろう、新しいものだっていう気配は伝わると思うんだよね。これは真逆で、言葉ではAI と言ってんだけど、パッと見の印象で古臭いものの広告って感じがする。

パレス岩谷：いや、仰る通りです。はい。ちょっとじゃあ、これも既視感、それになっちゃうかなって思ったんですけど、AI が見つけてくれた幸せってことで、例えばこういう。



小霜：まあ何の新しさもないよね。

パレス岩谷：そうですね、うん。次がZ案で、Z案ひとつなんですけど。コピーがまず、AI、アタイ、いいとこ知ってるよ。で、人工知能 in 旅、旅行アプリと。AIっていうのは人工知能の略っていうのは普通に分かると思うんですけど。そこにもう一個 Deaps の強みというかサービスの意味を含ませるって意味で、KY で空気読めないみたいなものと一緒に、あたい、いいとこ知ってるよ、AI。みたいなことを言葉で表現してみて。ちょっとこの言葉にキャラ付けをしたくて、要は旅のお供に Deaps インストールしてみようかなっていう、最初のクッションを言葉でキャラ付けして持っていきたいなっていうので、こういう言葉にしたので。その言葉に合うビジュアルとして、最初色んな人とか考えていたんですけど、ちょっとロボ感があるというか、あと食い倒れ人形っていう観光スポットっていう場所も、親和性がある食い倒れ人形くんが言っている感じにすれば、もうちょっとこう、キャラクターっぽさがこの表現に出て…。



Z案

小霜：もうね、うな丼に、ケチャップやらなんやらつけまくって、何の味だから分からない、ただ見ただけで吐き気を感じるような、そんなレシピになっちゃっていると思う。あたいって何なの？

パレス岩谷：わたし。

小霜：そういうことを言っているんじゃない。ここでもう無理じゃん。無理があるじゃない。無理っていうのは、何も面白くないよこれ。ぴったりハマってれば、おお、お見事って感じもあるけど。ま



あ無理くりやっているだけで、なんか全然クリエイティブとしてアイデアを感じないよね。

パレス岩谷：そうか…。

ポルコ：線を引いているのはどういう意味？

パレス岩谷：一応、AとIがあといだよ、みたいな。

ポルコ：え、どういうこと？

坂根もどき：DAI語みたいな感じ。

パレス岩谷：そうDAI語。KYとかそういう。

小霜：いやこれね、絵から旅行感も全然感じないし。さっき色々言ってたけどさ、後で講義録読んでみ。恥ずかしくなるから、絶対。自分で自分の言っていることが、もう分かんないと思うよ。君の言っていることが理解出来た人間は、この中に誰ひとりとしていないと思う。君だけの理屈だわ。

パレス岩谷：わかりました。ちょっと振り返ります。

小霜：振り返るっていうか、なんかね、なんていうの、英語でヘルタースケルターっていうの？ひっちゃかめっちゃかだな、全てが。

パレス岩谷：はい。大丈夫です、これは全部これのシリーズ化で考えてきただけなんで。

小霜：一回シリーズ見てみよう。

パレス岩谷：これを奈良の大仏が言っていたり、真実の口が言っていたり、あと自由の女神がちょっと伸びて、ちょっと自由の女神は元気かなっていうイメージで。で最後これが、あたいら良い所知ってるぜよ。



2案



2案

小霜：いや、知ってるのはAIなんじゃないの？こいつらが知ってるんじゃないでしょ。いやもう、全てがめっちゃめっちゃで、お前大丈夫か？

パレス岩谷：すみません。もうちょっとシンプルに考えます。ありがとうございました。

【おねしょん太郎&マジピッチチーム】

私がモアイ：あの、おねしょん太郎とマジ・ピッチから案を預かってきていて。代わりに発表みたいな、小霜さんに意見をくれないうって言われたんですけど、いまやっても大丈夫ですか？

小霜：良いよ。

私がモアイ：じゃあおねしょんとマジ・ピッチの代わりに、A案がまずこちらで、ここなら行ってみたいというキャッチコピーで、太宰治を使っていて。理由としては、気難しい太宰治にも響く旅先を提案できるということを通して、Deapsの好み分析機能を訴求しているというA案になります。



小霜：太宰治と旅って関連性ないよね、全然。

私がモアイ：気難しいってところをたぶんピックアップしたのかなって感じですね。っていうのがA案です。

小霜：ここなら行ってみたいっていうのもよくわかんないな。

私がモアイ：次がZ案で、この〇〇の部分には新元号が入ります。平成の次の元号が入って、このコンセプトとしては、新しい時代の旅のあり方としてのDeapsの活用を見せて行きたいです。新元号に変わるタイミングでの広告ローンチを想定しています。



小霜：これは悪くない。これは悪くないよ、はい。

私がモアイ：はい、ではそうフィードバックしておきます。ありがとうございます。以上2案です。

小霜：あの、新元号の〇〇みたいなね、そういうレトリックを自分たちで考えたんだったら良いと思う。なんか他でそういうことをやっていて、パクったんだったらダメだと思うけど。そのアイディアは僕ほかにまだ見たことがないのでオリジナルだったら悪くないんじゃないかなと思うけど。あとさ、一個気になったのは、新元号が決まってからのローンチっていうんだったら、みんな元号知ってるよね。〇〇で隠す意味ってものはやないよね。だから、あの表現が通じるのは、新元号が決まるまでなんじゃないの。

私がモアイ：たぶん〇〇のところには、新元号がそのものが入ってしまうという意味だと思います。

小霜：そういう意味なのか。だったらちょっとつまんないかな。

私がモアイ：なるほど。

小霜：まだ元号決まってないけど、次の時代の、っていう意味で、ああいう表現にしようかなって思ったのかなって、僕は思ったわけよ。それはちょっとアイディアあるなっていう気がしたわけ。新元号になった途端に、その元号の、っていう風にやるっていうのは、もう普通だと思う。そうすると、か

なりイマイチかな。要は新元号ってまだ先の話じゃない。将来のとか未来のっていう意味でね、来るべき時代のっていう表現でああいう風にしたのかなって思ったらから、それはいいなど。でも元号が変わった途端、未来ではなくなっちゃうわけで。しかも、同じような表現いっぱい出ると思う。わんさかと。その新しい元号で氾濫すると思うんだよ、世の中がね。したら埋もれちゃうね。表現としての強さは、その時点ではもうなくなっちゃう。

**ジャニーズ Jr. :** ひとつ気になるんですけど、20〇〇年とか、2千何なに年のなんちゃらみたいな表現ってよくある見られている気がするのですが、それを新元号に入ったら少しアイディア感が出るって。

**小霜 :** それは20〇〇年の、っていうのは、あまりにも手垢がついているというか、見飽きているから。ただ、どんな元号になるかっていうのは皆気にしているところで、どんな元号になろうともっていう表現は、表現としては新しいかなって思った。じゃあ以上かな。今日のところで質問ある人。

**ポルコ :** 最初の方に思っていたりしてたことに戻っちゃうんですけど。旅アプリだから、アプリが見つけたくれた場所が、なんか面白いというようなビジュアルの見せ方が良いのか、このアプリがすごいので、アプリを見てびっくりみたいな、ユーザーの風景もあるんじゃないかとか、そういうのも考えた時があったんですけど。だいたい皆結局、こういう場所を提案してきたっていう、具体的な場所を示したものが多かったんですけど。そうした時に、ジャニーズ Jr チームが前出したようなJR版じゃないんだけど、そこの場所を勧めているようなものに見えちゃうっていうのが、作りながら何回もあるんですけど。

この辺は結局どっちなんだろう、旅アプリである以上、やっぱり旅先を見せたほうがいいんじゃないかと最終的にはそう思ってやっていたんですけど。途中、このアプリはおでかけて言っていたけどみんな、旅でいいんじゃないっていうことになって、そうすると旅先を見せていこうっていうことで、そういう風に考えたんですけど、それはそれで良かったんですかね。

**小霜 :** それはそれで良かった。なぜならば、これも前に言ったと思うけど、カテゴリーによってね、そのカテゴリーだって分かる最低限の印象ってあるわけ。要は、パッと見、あ、これはマンション広告だなとか、パッと見、これは化粧品広告だなとかって、あるじゃない。で、その化粧品の広告なのにマンション広告みたいに見えてると、それは相当チャンスロスがあるわけで。今回ターゲットは、旅好きの人ってことになっているわけだから、パッと見で、これ旅に関係している広告だなんて、そういう印象をまず与えなきゃいけない。だから、旅っぽいビジュアルが来るっていうのが正解なわけ。ただね、じゃあその上でどういうビジュアルを選ぶべきかっていうと、あまりにもステレオタイプなものだとつまらないものをリコメンドしてくるような感じになっちゃうし、あまりにも具体的すぎると、そこの広告に見えちゃうってことがあるから、旅感はあるんだけど、どこかは分からない、とかね。どういうビジュアルが、今回のお題にフィットするのかっていう選び方みたいなも

のも考えなければいけなかったと思う。

**ポルコ**：ということは、その場所の写真が物珍しかったり、すごく立っているみたいなの、そういうビジュアルで目を引くっていう論法じゃない方が良いわけですよね。あくまでも、旅に関わることなんだっていうビジュアルにした上で、言葉の意味とかコピーのあり方みたいなもので引きつけていくべき？

**小霜**：ビジュアルのことで言うとね、大仏がこうボンと出てくると、これは奈良に行きましょうっていう広告に感じたりね、鎌倉に行きましょうっていう広告に感じたりするわけで。そうじゃないんだと。これはロケーション広告じゃないのよってことを示すためには、何かコピーが必要で、大きなキャッチが必要で。じゃあどういうキャッチを持てば良いのかなって、そういう掛け算になってくるわけ。さっきのね、これとこれとこれが好きなあなたにこれみたいなやつは、具体的なここに行きましょう広告には見えなかった。それはキャッチのおかげでね。ああいうキャッチじゃなければ、ゴジラ岩みたいな、そこの広告になっちゃったと思う。で、やっぱりそこのところのキャッチとビジュアルの掛け算をどうするかっていうところが、今回のミソのひとつでね。

**ポルコ**：ただその時に、小霜さんがいま言ってくれたようなことを考え方としては通った上で、目を引く場所、目を引く写真みたいなものを探したというステージになったわけですよ。それって目を引く写真になった結果、みんなほかにもあったと思うんですけど、全員がこれを好きとは言えない、っていうご指摘もあったと思うんですよ。こういう人が必ずしもこの場所を好きとは言えない。立ちすぎるから、次の疑念が生まれてくるってことで逆の効果になった気がするんですけど。それはでも抑えていくと、今度ビジュアルにはあまり頼れないということになってきますよね？

**小霜**：まあそうね。今回見て僕がこれが〇じゃないかって言ったのは、旅先のビジュアルがないものだよな。言葉だけのものだったり。知ってるんだぜって、ダム巡りっていうものが立っているから、言葉が立っているだけで、旅っていう感じはするかなとか。だからやっぱり旅先の写真バーンとあったら、旅に絡んだ広告だなんていうのは分かるんだけど、ロケーション広告にどうしても見える、まあそこに引っ張られちゃうってことはあるんで。それをどう処理するかってね、かなりの知恵がいるかなとは思うよね。

**ポルコ**：難しいですね。意味を持たせようとしすぎて、ビジュアルを工夫しすぎたり、イラストにしたりとか。それはやっぱりすごくこう、お互いが立っちゃうからっていうご指摘が前の時にあったと。なんとなく普通そうだよなみたいなことを何回も考えながらやってこうってことでやったけど、結果的にはこれ作ったり考えたりすることが、すぐ出来ちゃうような。さっきのお金かかんないみたいな話じゃないけど。そんなアイデアになったね、みたいな。ちょっと心配はあったんですけど。結果的にはそっち方面じゃなくて、ちゃんとアイデアをもっと広げたり、詰めたりす

べきだった。こういうことだったんだなあとみんなのを見て思ったんですよ。

**小霜**：さっきマッチした少女ってあったでしょ？あれはマッチ売りの少女がどこかリゾートにいれば良いわけだね、リゾートにいれば、それがハワイなのかグアムなのか関係なくて、旅感が出るじゃない。だから、旅感で良いんで、パッと見ね。どこか風景の写真を1枚貼っとけば良いってということではないと思うんだよね。今回のお題ってというのは。だってAIでマッチングするって新しいものを表現しようとしているわけだから、やっぱ何らかの工夫がないと、これまでの旅の広告にしか見えないってことはあるわけだから。そこを乗り越えて、すごくシンプルで斬新なものっていう気配はなきゃいけないってことなので。そこまで行き着いてないって表現が多かったって印象。

**37.2℃**：質問いいですか？今回に限らずなんですけど、課題、今日だったら Deaps。みんなたぶん Deaps 使ってみて、それほど使えないなって思ったと思うんですよ。でもなんとか Deaps を好きにならないといけないうってなったときに、別のところに、これだったら AI を今回は言ってるんですけど、僕だったらすぐに飯屋を探せるところに良いなと思ったんですけど。なんかそういう、無理に好きになろうとした結果ズレが出るのって、どういう風に対処したらいいのかなって。

**小霜**：無理に好きになろうとした結果ズレが出る…？

**37.2℃**：なんか、まず商品を肯定しないとイケない感じのときに、僕にとってこの AI っていう能力がそれほど感じられなくて、その結果、違った使い道だったらまだ気に入るアプリになるなって思ったんですけど。その、のめり込み具合というか。

**小霜**：好きにならなきゃいけないのよ。ファンにならなきゃいけないのね。僕が言っているのは、嘘をついてはいけないうってことなんだよね。出来もしないことを出来るかのように言っはいけない。あ、これ出来るんだと思って期待して、使ってみたら出来ないじゃんってなるのは絶対良くないわけ。だから出来る範疇で、最大の魅力化をどうするかっていう話なんで。好きになってのめり込んで、は全然良くて、そのあまり出来もしない嘘を表現しちゃうってというのはダメで。使ってみたら、いやこういう使い方のほうが本当は良いんじゃないのって思ったんだしたら、そういう表現にしたって俺はいいと思うんだよね。本来は、旅先を選ぶっていうもんだけど、今のところはそんなに魅力的な旅先を提案してくれないよね、と。それよりかは、こういう風な使い方の方が、今は良いんじゃないかっていう風に思ったら、それでも良いと思うんだよね。ただ、そういうことによって道筋が変わっちゃったらいけないとも思う。今はデータが少ないからこんな程度だけど、先々はデータ膨らませて、もっと精度の高いリコメンドをするように開発するぞって事業主が思っているんだしたら、一番最初にそっちじゃない方向を示唆するような表現をやっちゃったらいけないと思うんだよね。その方向に乗っちゃって、いまどの程度の表現をするのかっていう発想をしていかなければい

けない。

ポルコ：好きになれないなと思ったときどうするっていう意味合いもあった？

37.2℃：それもあるんですけど、それは絶対不可欠なんじゃないかなって。暗示をかけてでも。

ポルコ：それほどの AI じゃないなと使ってみて思っ、それをこの AI はすごいって言わなきゃいけないんだ、いけないんだって言っているうちに齟齬が生じちゃうってことを心配しちゃう？

37.2℃：それもあって。好きになる方法、でもないけど、なんだろう。

ジャニーズ Jr.：さっきの話を聞いていて、結構有名な話かもしれないけど、〇〇〇〇さんが JT の広告をやって、これ好きになれねえなってタバコはやっちゃいけないと思って、途中からほったらかしちゃったっていう話があつて。

小霜：ごめん、ちょっと意味が分からないな。

ジャニーズ Jr.：なんか、〇〇〇〇さんが、最初 JT の広告を持っていて、最初から嫌々だけど、最後結果的に僕はタバコの広告はやりませんって断っていたっていう話を聞いたことがあります。

小霜：それが？

ジャニーズ Jr.：それが好きになれないというか。

小霜：そのスタンスが？

ジャニーズ Jr.：そうそう。

小霜：それは俺は初めて聞いた話なので、よくわからないんだけど。まあ本当だとすると俺も好きじゃないね。だったら最初から受けんなよっていう話だし。やっぱ途中でね、放り投げるってみんなに迷惑かけることだからさ。あの、この間僕の友達の元医者さんが本を書いてさ、それが 1 月入稿だったんだよね。で 12 月に編集者が逃げちゃったんだよ。逃げたっていうのは、放り出したんだよね、無理って言って。で、出版社が僕のところに泣きついてきたわけ。もう正月返上で、そこから僕は全体の監修をやって形にしたんだけど。その編集者を紹介したのが僕だったんで、すごい責任を感じて、まあ形にしなきゃいけないなと思って形にしたんだけども、やっぱね、それ 2 年くらい前から始まった企画で、もう出版社も含めさ、出版社は 2 月に店頭に並ばせようと思っているわけで。まあ



みんな迷惑するわけよね。

俺ね、その編集者が自分の手に余るって思ったら、俺のところに相談来ても良かったじゃんって思うわけ。いや小霜さん、これ本当自分には難しくて無理なんですよ、手伝ってもらえませんか。っという風に言ってくるべきだと思うんだよね。やっぱり全部放り投げて逃げるっていうのは、いやもう俺はそいつとはもう絶交だね。こんな無責任なやつとはもうとも付き合えないと思う。で、その JT 途中で降りたっていうのも、俺はいきさつを知らないからなんとも滅多なことは言えないんだけどさ、でも彼が降りることで、中に入っているエージェンシーとかね、迷惑かかっていると思うんだよ、かなり。俺のポリシーだからみたいなことで降りたとしてもさ、何の拍手もする気になれない。迷惑かけてるじゃんっていう、そんな感じ。で、この商品が好きだからやる、この商品が嫌いだからやらないっていうのは、まあそれはあってもいいと思うんだけど、迷惑かけないようにしろよって感じかな。ちなみに、僕のスタンスは、もう完全にノンジャンル。違法でなければ大体あり。消費者金融だろうとパチンコだろうと、なんだって受ける。JT は俺タバコもうやめちゃったんで、タバコやめた奴がタバコの広告やるのはどうかなって思うけど。ちょっとそういう意味で受けられないかなと思うんだけど。だって、みんな何かに依存して生きてると俺は思うんで。毎日バーに行ってね、スコッチ飲んでる人がかっこいいかって言ったら、それはスコッチに依存しているわけでしょ。毎日 1 回はパチンコやらないと気が済まないんだっていう人と、何の差も感じないんだよね。まあもちろん、ギャンブルやりすぎて、借金背負ってね、みたいなのが問題だっているのはあると思うんだよね。でも、俺のおやじなんて毎日酒飲んで、すごい借金してたからね。何が違うのって感じがするの俺。個人的には、20 代の頃、消費者金融で金借りまくって、銀座で飲んでたからね。若い頃はサラ金で金借りまくったやつがさ、今や消費者金融なんてできませんよ、なんて、かえってカッコ悪いじゃん、って僕は思う。

ジャニーズ Jr.:わかりました。

小霜:これは僕の個人的なポリシーなので、みんなに押し付けようとかそんなことは全くないんだけど。

まあでも、1つの商品を引き受けたからには、そこのファンになるっていうのは、大事なことだと思うけど。どんなものでも光と影ってあると思うんだよね。あらゆるものには光と影があって。でも、影の部分はちょっと置いとこうよと。お酒の CM でも注釈いっぱい入るわけだけどさ。飲みすぎはいけないよとかね。例えば昔は、2 ゴクって言ってたわけ。2 ゴクっていうのは、飲む時にこう、ゴクゴクって2回喉を鳴らすのまでは OK。で、3 ゴク、ゴクゴクゴクまでやると、これは一気飲みになるからダメっていう、そういう規制があって、今はね、1 ゴクなんだよ。ゴクは1回まで、みたいな、そういう規制があるんだよね。だから、そういう意味で言うと、お酒も影があるわけじゃない。適度だったらハッピーになれて、コミュニケーションになれていいよねって、でも飲み過ぎると、急性アルコール中毒になっちゃったりとか、肝臓を壊しちゃったりとかみたいなことがあるから。その影の部分も一応気にしながら、光の部分表現するってことをやっているわけだけど。だから、Deaps もまだ中々使えないとかね、っていうことがあるにせよ、光の部分もあるわけで、きつとね。

そこを認めて描いていってあげなきゃいけない。ただこれが、もしすごく進化して普及すると、たぶん色々想像もつかないような問題が起きてくるような気はするけどね。

小霜：ほかに質問あれば。えっと、じゃあ来週は、ラストだよ。ああ再来週ね。1年間通じての疑問を、ひとり一個ずつ持ってくる。で、全員に聞く。全員に聞いて答える。だからひとりひとつ。

ジャニーズ Jr.:疑問自体の制限的なものは？

小霜：制限なし。なんでも良いよ。

ポルコ：全員に聞いてってことは、まず全員が言ってからってことですか？

小霜：ああ、ひとりがいくつでも、聞けなかった人がいないという、そういう状態にしないという意味で。ひとりずつ。

サッチー：先生ひとりがお答えになるということですか？

小霜：そうね。まあ突っ込みたい人がいたら、突っ込んでくれても全然構わないんだけど。

サッチー：いや、初回の頃の、みんなでどれにする？とかいうあれではないんですね？

小霜：そうだね。もうこれは個人的な。

いい肉大木：毎回やられているんですか？

小霜：ううん。

サッチー：なんで今年はやるんですか？

小霜：ていうか、每期内容変わってるのよ。例えば、今回はペアにしたでしょ。前期までは最後のワークショップは4人グループとかにしてたわけよね。でも4人でグループにすると、誰かひとりサボっても出来ちゃう。とか、ついていけないやつっていうのが、自然に出て、ってことがあるんじゃないかなって思ったんだよね。それよりは、ペアっていう方が、もう無視できないじゃん。3人いたら、ひとり無視して後の2人で作るみたいなこともできるかもしれない。だからグループよりもペアの方が良いんじゃないかなって思ったりしてね。あとペアだと絶対やりとりしないといけないから、相手の意見をどう受け止めるのか、なんか自分の考えとそぐわないけど許容するのか、自分

のアイデアを押し通すのか、みたいなことをやらなきゃいけないよね。だから、グループよりもペアの方が密になるんじゃないかなって思ったんで、まあ初めてペアっていうのを取り入れたと。要は、每期每期、進化しているわけ。ちょっとずつちょっとずつね。だって、これははじめたのもう10年ちょっと前なわけだけども。10年前の環境と、今の環境ってもう全然違うわけだから。10年前教えてたこと、教えるやり方を今もやってたらさ、それってねえ、どうなのよっていう。每期每期やり方変える、進化させるっていうのが僕は当たり前だと思っているわけで。例えば講義の最初の頃は戦略先にするんじゃないかと、表現先にやって戦略後でくっつけるみたいなことも、2、3年くらい前からやり始めたんだけど。それ先にやらないと、本当にもうガチガチで何も面白くない表現ばかりが出てくるっていう風になっちゃうので。なんでっていう質問に答えると、僕が化石ではないってことだよ。現役のプレイヤーだから、常に新しいやりかたを模索しているっていう。

ジャニーズ Jr.: それってなんで男女ですか? なんで男女にしないといけないんですか?

小霜: ペア? なんていうのかな。

ジャニーズ Jr.: 考え方の違い的な?

小霜: えっと、一言で言うと、女の時代なんだよねいまね、色んな意味で。あの、男っぽい生き方をする女性っていっぱいいるでしょ? でも、女っぽい生き方をする男って、あんまりいないよね。そりゃLGBTみたいなことがあって、そういうのも認めようっていうのはあるんだけど。現実ね、昔でいう男性的な価値観というものを女性は受け入れていて、昔の女性的な価値観を受け入れる男ってそんなに少ない。女性の方がキャパが広がっている気がするんだよ、僕ね。なんかね男と男で考えると、どうしてもね、幅が狭くなるっていうかさ。男と男のチームと、女と女のチームを比べると、女女チームの方が幅が広いと思うんだよね。だから、男女でやるほうが、なんか閉じないとかね。バランスが良い。男男って非常にバランスが悪い気がなんかするんだよね。女女よりも女男の方が良いかなと思うんだけど、まだね女女の方が許されるかなって、男男に比べれば。なので、男女が基本で、女女もありっていうことにしたのはそういうことなんだけど。

いい肉大木: 小霜さんがいま仰っていた、女のキャパっていうのはどういうことですか?

小霜: えっと、人生の選択肢が女性の方があるじゃん。男の選択肢ってさ、非常に少ないわけよ。主夫っていうのも存在するけど、まあまだまだ少ないよね。現実、男ってさ、働かなきゃいけない。どういう風に有利な働き方をしてお金を稼ぐかっていう、実は生き方って、それ1本の道しかないわけよね。でも女性って、働くっていう選択肢もある、でも働くにしても、独身で働き続けるのか、それとも子供産んでワーママをやるのか、もしかしたら、もう働くのやめちゃって専業主婦になるっていう

道もあればさ、バリエーションがあるわけよね、人生の。男に比べれば全然。そのバリエーションを全部知った上で、自分の人生を選ばなきゃいけないってことの大変さ。だから女の人生の方が、俺は大変だと思うんだよね。しかもそれ全部自分が責任持たないといけないでしょ。自分の選択について。そういう意味で、考えることの量が男より大きいと思うんだよね。人生とか、社会とか生活とかについて、考えることが。だからそういう意味で、価値観の幅みたいなものが、キャパシティみたいなものが男より大きいんじゃないかって、そういう風に僕は感じていて。

他になんかあれば。えっとね、1年を通して君ら見ていて、思うことが一個あるんだけどさ。まあ今日もそうなんだけど、これどう思う？って聞くじゃん。その時に、こうしたらもっと良くなるんじゃないかっていうアイデア出す人がいないんだよね。ここおかしいと思う、は言うんだけど、じゃあどうすれば良い？っていうね。ここを、こういうコピーにしたら良くなるんじゃないか、こういうビジュアルにしたら良いんじゃないかっていうアイデアを出しているのは、実は俺だけなんだよ。そう思わない？いやクリエイティブって、アイデア出してなんぼなんだよね。自分だったらどうするだろうとか、これこうしたらもっと良くなるんじゃないかとか。そういうものを自然に考えるっていうかさ、そういう体質を身につけて欲しいって思うかな。そこが、作業なのか、提案なのかの分かれ目なんだよね。提案っていうことに付加価値っていうものがついてきて、お金になるわけよ。提案できない人は言われるまんまに作業するしかないわけよね、そしたら時給ってことになっちゃう。提案体質みたいなものに、もっとなんなきゃいけないかって。じゃあそういうことで、今日は以上です。

以上